

(様式第1号)

平成30年10月30日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : マネジメントに関する領域
科 目 名 : 介護業務の標準化と質の管理
単 位 数 : 2単位
認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 一般社団法人三重県介護福祉士会
団体事務所の所在地 : 〒514-0004
三重県津市栄町3丁目243 関権第3ビル 602号室
電話 : 059-264-7741
FAX : 059-264-7742
E-mail : mie_kaifuku@ybb.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (一社) 三重県介護福祉士会Ⓔ
申請責任者 : 大田 京子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年10月30日
申請団体名	一般社団法人 三重県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 大田 京子
申請責任者職名 申請責任者氏名	認定介護福祉士養成研修担当 森 聖志
団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス	〒514-0004 三重県津市栄町3丁目243 関権第3ビル 602号室 Tel:(059)-(264)-(7741) Fax:(059)-(264)-(7742) E-mail:mie_kaifuku@ybb.ne.jp
申請対象の領域	領域名: マネジメントに関する領域
科目名 (単位数)	科目名: 介護業務の標準化と質の管理 (2単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 () 年 認証番号 () 年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	マネジメントに関する領域	
科目名	介護業務の標準化と質の管理	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自職場において実践されている介護業務を整理し、サービスの質の評価と改善に向けた検討を行うことができる力を育成する。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの質の評価の枠組みに関する基礎的な概念について概説できる。 ・プログラム評価の考え方について概説できる。 ・論理的思考に基づいて実践を整理・記述することができる。 ・上記を踏まえたうえで、自職場の実践を科学的・客観的に記述、評価し、サービスの質の改善に向けた検討、業務の標準化に向けた実践の基準づくりや実践の組織の検討を行うことができる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒューマンサービスの特性 ○サービスの質の評価の枠組み <ul style="list-style-type: none"> ・ストラクチャー、プロセス、アウトカムの考え方 ・プロセス評価とアウトカム評価 ・技術的部分（科学的根拠）と対人関係的部分 ・既存の「評価」の意味と意義（第三者評価、報酬の加算・減算など） ○実践の記述と分析 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム評価の考え方（インパクト理論、プロセス理論、フィディリティ評価等） ・経験学習に基づく実践の言語化、構造化、抽象的概念化（演習含む） ・論理的思考に基づく自職場実践の記述と構造化、評価と改善策の検討（課題学習と演習） 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前課題①（3時間） <ul style="list-style-type: none"> ストラクチャー、プロセス、アウトカムの枠組みを示したうえで、介護実践の質をどのように評価できるかについて、自身の考えをA4・1枚でレポートする。いくつかの参考文献を合わせて提示する。 ○ヒューマンサービスの特性と質の評価（4時間） <ul style="list-style-type: none"> （講義）形のある商品と比べて時にサービスには財としてどのような特性があるのか、そのなかでヒューマンサービスにはどのような特性があるか。 （講義）ドナベディアンモデルの説明、ストラクチャー・プロセス・アウトカム評価、介護報酬の仕組み（ストラクチャーからプロセス、アウトカムへ）、評価の目的、実践の改善に資する手法としてプロセス評価の有効性を理解する。 （演習）講師が提示した事例（介護報酬の構造、例えば栄養マネジメント、重度者対応、看取り）をもとに、報酬による評価の構造を理解し、プロセス評価やアウトカム評価の重要性を理解する。次いで、プロセス評価とアウトカム評価の利点や課題を議論し整理する。

<p>○介護業務の標準化と管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助における標準化の意味、サービス標準、ケアミニマム ・介護業務基準、業務と実践の捉え方(演習含む) ・指導的立場にある者の職務(内省支援、業務支援、精神支援等)、学習する組織の重要性 ・可塑性を行動レベルではなく思考レベルに求めるマニュアルや手順書のあり方、実践の基準づくり、実践の組織化のあり方(演習含む) 	<p>○事前課題②(4時間)</p> <p>自分の属する組織での実践を、ケースに沿って具体的に記述し、A4・1枚にまとめる(実践内容は、コンチネンスケア、食事ケア、看取りのいずれかとし、研修生の職位や分野を踏まえて決定する)。</p> <p>○実践の構造的な記述(8時間)</p> <p>(講義)実践の質の向上においてサービスの標準化が不可欠であることを理解したうえで、実践と業務の違い、業務基準、指針・マニュアル・手順書の違いなどを理解する。実践の構造的な記述(言語化、抽象的概念化、構造化)なしに継続的な質の改善が図れないことを理解し、記述に有益なプログラム評価の考え方を学ぶ。</p> <p>(演習)事前課題②をもとに、インパクト理論を作成したうえで、プロセス理論に基づいて実践の構造的な記述をグループ(4～6人)で行う。事例を出発点としながら、個別具体的な事例から離れて実践を管理的な視点で記載することが、サービスの標準化、業務基準、ケアミニマム、ルール・ロール・ツールの考え方に通ずることを理解する。記述において経験学習理論が有益であることを理解する。</p> <p>○事前課題③(2時間)</p> <p>自職場におけるコンチネンスケアにかかわるマニュアルや手順書を準備し、介護保険法や障害者総合支援法の理念を念頭におきながら、講師が記載した視点に基づいて、マニュアルや手順書の評価と課題を記述する。</p> <p>○評価項目の作成と質の管理(3時間)</p> <p>(講義)サービスの質の評価方法について解説する。フィデリティ評価、パフォーマンス測定、自己評価と第三者評価の関係性を理解する。</p> <p>規範として定義された実践のプロセスを組織化する方法、部下の育成方法について学ぶ。</p>
---	--

	<p>(演習)、作成したプロセス理論をもとに、サービスの質に関する評価項目を具体的に検討する。提出された事前課題③を用いながら、質の改善に寄与する指針・マニュアル・手順書の関係を理解する。</p> <p>○事後課題 (6時間) 演習を振り返りながら、プロセス理論をまとめる。作成したプロセス理論をもとに、実践の質の評価項目を具体的に検討するとともに、実践の改善のために必要な組織化計画とアクションプランをまとめる。</p>
含むべきキーワード	<p>ヒューマンサービスの特性、質の評価の意義、質の評価 (ストラクチャー・プロセス・アウトカム)、科学的根拠、プログラム評価、フィディリティ評価、サービスの標準化、実践と業務、業務基準、言語化、抽象的概念化、経験学習、評価と改善、ルール・ロール・ツール、自己評価、第三者評価</p>
研修方法	<p>■集合研修 ■課題学習</p> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。 ○課題学習は事前課題①～③ (詳細は上述)、事後課題① (詳細は上述)。事前課題①は初回集合研修前に提出。事前課題②は第二回集合研修前に提出。事前課題③は第三回集合研修前に提出。すべての評価は担当講師が行い、各集合研修に活かす。 ○演習はグループ演習とし、講師が巡回指導を行う。</p>
研修時間	<p>30 時間 (集合研修 15 時間、課題学習 15 時間)</p>
修了要件	<p>○原則として全課程の出席を要する。やむ得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。30分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。 ○事後課題はA～Dの4段階評価とし、D評価の場合は再提出を求める。事後課題の提出が期限内に行われない場合、修了を認めない。 ○基礎理論については、知識チェック (テスト) を行う ○テスト (基礎知識の定着) 20点、リフレクションペーパー20点、自宅学習40点、講義と演習への参加貢献度20点 ○欠席の場合は修了を認めない。</p>
講師要件 (講師の選定基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある事。 ・修士課程を修了している事。 ・介護福祉士として指導的立場で5年以上の経験があり、実践の評価と改善に取り組んでいる者が望ましい

(2)受講者について	
受講対象 (受講要件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ I 類を修了していること。 ・ ユニットリーダー又はサービス提供責任者以上の職歴が3年以上の者が望ましい。
修了評価	<ul style="list-style-type: none"> ①出席状況が修了要件を満たしていること。 ②基礎理論については、知識チェック（テスト）を行う ③テスト40点、リフレクションペーパーの内容30点、自己演習+演習・講義への参加貢献度30点
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	15名（講師：1名）
開催場所（都道府県）	三重県介護福祉士会 研修室 (三重県津市栄町3丁目243 関権第3ビル2階)

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 32 年 1 月 日 ()
	② 平成 32 年 2 月 日 ()
	③ 平成 32 年 2 月 日 ()
開催場所 (会場)	①②③三重県介護福祉士会 (三重県津市)
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	日本社会事業大学専門職大学院教授、博士 (工学)、社会福祉士 井上 由起子 氏
	「介護報酬改定・研究検証委員会」構成員 (厚労省)、「医療介護総合確保促進会議」構成員 (厚労省)、「サービス付き高齢者向け住宅に関する懇談会」構成員 (国土交通省) 主な著書 「介護福祉の組織・制度論」光生館、共著、「私たちの住まいと生活」彰国社、共著、「実践事例から読み解くサービス付き高齢者向け住宅」中央法規出版、共著、「いえとまちなかで老い衰える」中央法規出版、「個室ユニット型施設計画ガイドライン」中央法規出版、共著、
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会 (常勤: 1 名、非常勤: 4 名) 実行委員会事務局 (担当事務局員、介護福祉士会事務兼務、常勤 2 名) 研修実行員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸 規程	三重県介護福祉士会の定款、生涯研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	
研修管理責任者氏名	会長 大田 京子
機構問合先部署	一般社団法人三重県介護福祉士会 事務局
機構問合先担当者氏名	森 聖志
機構問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
機構問合先 e-mail アドレス	mie_kaifuku@ybb.ne.jp
受講問合先部署	一般社団法人三重県介護福祉士会 事務局
受講問合先担当者氏名	森 聖志
受講問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
受講問合先 e-mail アドレス	mie_kaifuku@ybb.ne.jp

(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	三重県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	大田京子（会長）
管理担当者氏名	稲木千泰（三重県介護福祉士会 事務局兼務）

別紙 1

認定介護福祉士養成研修時間割表

領域：マネジメントに関する領域

科目名：介護業務の標準化と質の管理

(1日目) 平成 32 年月日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1	○ヒューマンサービスの特性	9:00~10:30	○ヒューマンサービスの特性と質の評価 (講義) 形のある商品と比べた時にサービスには財としてどのような特性があるのか、そのなかでヒューマンサービスにはどのような特性があるか。 (講義) ドナベディアンモデルの説明、ストラクチャー・プロセス・アウトカム評価、介護報酬の仕組み(ストラクチャーからプロセス、アウトカムへ)、評価の目的、実践の改善に資する手法としてプロセス評価の有効性を理解する。
	休憩	10:30~10:40	
2	○サービスの質の評価の枠組み ・ストラクチャー、プロセス、アウトカムの考え方 ・プロセス評価とアウトカム評価 ・技術的部分(科学的根拠)と対人関係的部分 ・既存の「評価」の意味と意義(第三者評価、報酬の加算・減算など)	10:40~12:10	(演習) 講師が提示した事例(介護報酬の構造、例えば栄養マネジメント、重度者対応、看取り)をもとに、報酬による評価の構造を理解し、プロセス評価やアウトカム評価の重要性を理解する。次いで、プロセス評価とアウトカム評価の利点や課題を議論し整理する。
	休憩	12:10~13:10	
3	○実践の記述と分析 ・プログラム評価の考え方(インパクト理論、プロセス理論、フィディリティ評価等) ・経験学習に基づく実践の言語化、構造化、抽象的概念化(演習含む)	13:10~14:40	○実践の構造的な記述 (講義) 実践の質の向上においてサービスの標準化が不可欠であることを理解したうえで、実践と業務の違い、業務基準、指針・マニュアル・手順書の違いなどを理解する。実践の構造的な記述(言語化、抽象的概念化、構造化)なしに継続的な質の改善が図れない

			ことを理解し、記述に有益なプログラム評価の考え方を学ぶ。
	休憩	14:40~14:50	
4	・論理的思考に基づく自職場実践の記述と構造化、評価と改善策の検討（課題学習と演習）	14:50~16:20	（演習）事前課題②をもとに、インパクト理論を作成したうえで、プロセス理論に基づいて実践の構造的な記述をグループ（4～6人）で行う。事例を出発点としながら、個別具体的な事例から離れて実践を管理的な視点で記載することが、サービスの標準化、業務基準、ケアミニマム、ルール・ロール・ツールの考え方に通ずることを理解する。記述において経験学習理論が有益であることを理解する。

(2日目) 平成 32 年月日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8:30~9:00	
1	1日目つづき	9:00~10:30	1日目つづき
	休憩	10:30~10:40	
2		10:40~12:10	つづき
	休憩	12:10~13:10	
3	○介護業務の標準化と管理 ・対人援助における標準化の意味、サービス標準、ケアミニマム ・介護業務基準、業務と実践の捉え方（演習含む） ・指導的立場にある者の職務（内省支援、業務支援、精神支援等）、学習する組織の重要性 ・可塑性を行動レベルではなく思考レベルに求めるマニュアルや手順書のあり方、実践の基準づくり、実践の組織化のあり方（演習含む）	13:10~14:40	○評価項目の作成と質の管理 （講義）サービスの質の評価方法について解説する。フィデリティ評価、パフォーマンス測定、自己評価と第三者評価の関係性を理解する。 規範として定義された実践のプロセスを組織化する方法、部下の育成方法について学ぶ。
	休憩	14:40~14:50	
4		14:50~16:20	演習)、作成したプロセス理論をもとに、サービスの質に関する評価項目を具体的に検

			討する。提出された事前課題③を用いながら、質の改善に寄与する指針・マニュアル・手順書の関係を理解する。
	休憩	16:20~16:30	
5	筆記試験	16:30~17:15	確認のための試験

(1時間は45分換算とする)